

(別添3)

【かほく市】 校務DX計画

令和5年度に実施された文部科学省の「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストに基づく自己点検」の結果を踏まえて、本市における課題を把握するとともに、校務DXを推進するため、下記のとおり取り組んでいく。

1. クラウドツールの利活用について

保護者との連絡やアンケート回答、職員間での情報共有など、クラウドサービスを活用した校務DX化が学校での一部の業務において進められているが、職員会議や授業研究会、校内研修等の打ち合わせや発表の場におけるクラウドサービスの活用率が低い状況である。先進地域での取組事例等を研究しつつ、クラウドサービスの活用率が低い業務について、活用方法の検討や周知を行い、クラウドサービスの利活用を推進していく。

2. FAXでのやり取り・押印について

本市における小中学校の校務について、外部とのFAXのやり取りや押印の必要な書類の受け渡しは、クラウドツールの活用等により徐々に見直しが進められているが、依然必要な業務として残っている状況である。

令和6年8月に文部科学省から発出された事務連絡「学校とのFAXでのやり取りの慣行・学校現場に関連する押印ルールの見直しについて」を徹底するとともに、ルール等を見直しを図りながら校務のDX化を進めていく。

3. 校務系ネットワークについて

本市の校内ネットワークは、校務系ネットワークと学習系ネットワークが分離しており、それぞれのネットワークに接続することができる端末が決まっている。校務系端末については、接続できる環境も固定化されており、教職員が校務を行うことのできる場所が制限されている状況である。次世代の校務DX環境として挙げられている、ゼロトラストの考えに基づくネットワークの統合に向けて、インフラ面での整備は当然のこと、令和4年9月に策定した「かほく市立学校教育情報セキュリティポリシー」の改訂等について、他自治体での事例を参考にしつつ、本市における導入を検討していきたい。

また、県下自治体の統一システムとして導入されている現行の校務支援システムについては、令和8年度に次期更新となるため、導入されるシステムの特徴を把握し、データ連携等の機能を活用した校務の省力化・DX化を図っていきたい。